

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／水谷文彦

一点突破型の 専門教育を通じて 人間的な広がりを養いたい

基

礎から応用へ——デザイン教育
においてもこれは一般的な方法
です。しかし、本校グラフィックデザイン

コースではいきなり大型の作品、たとえ
ばポスター作りから始めます。すると、
学生たちはそれなりの作品を思い思い
に作ったりするんです。十人十色とはよ
く言ったもので、それぞれの学生の良い
点や不足点、が作品を通して分かりま
す。教える側はそこから学生個々の力
や傾向を掴み、各自の卒業時の姿を想
定し、目標を定めていく。このこと
を本校では「トッパー教育」と呼んで
います。

「初心者をプロフェッショナルにする」、
本校の教育基本ポリシーです。コース・
専攻ごとにカリキュラムは決められてい

ます。しかし、同じカリキュラムで学ぶに
してもやはり一人ひとりとは同じではない
のです。アイデアが面白いもの、色彩
が優れているもの、構成が見事なもの
…色々です。その一人ひとりの能力を大
切にして育てていきます。創立以来44
年にわたって培ってきたこの独自の教育
メソッドにより、描写力、表現力において
他校から一目置かれる学校になったこと
はコンペティションで多くの学生が結果
を出しているのを見ても明らかです。

到達点から順次必要とする箇所を
選りすぐって教育する、といっても徹底
するのは基礎教育です。かつては広告、
出版、印刷業界が大勢を占めてきた卒
業生が進出する世界も今ではゲームや
アニメ、映像やCG、Webさらには商品

企画などに広がっています。重要なこと
は基礎を徹底してそこからさまざまな
想像力と表現力を導き出すことです。
その最大公約数的な基礎力は、守備工
リアが広がるほどに重要性が増してい
ると言えます。

発展途上にある学生らに生涯を通じ
て生きていけるだけの力をつけることが
教育だとすれば、専門学校使命はそ
の力を専門教育を通じて養うことだと
思います。広い教育をするから必ずしも
広い人間になるわけではありません。一
点突破型の専門教育をしていくなかで
も、人間的な広がりも養えます。一を聞
いて十を知るということでしょうか。

今年、本学院における40数年の実績
をベースに、グループ校として「日本マン
ガ芸術学院」を名古屋に設立しまし
た。デザインが、社会に対していかに「ミ
ニケートしていくか」ということであれ
ば、マンガやアニメはメディアアートの領
域で、一つの独立した世界として世に問
うべきと考えたからです。歴史もあり
実績もある洗練されたクールな「エデ」
(日本デザイナー芸術学院)に対して、
「ニチマ」(日本マンガ芸術学院)は情熱
の塊のようなホットな学校になってほし
い。両校とも、センスがあり、中身も伴っ
たカッコいい学校でありたいと思います。

日本デザイナー芸術学院 校長 本山星求



【校長プロフィール】もとやま せいぎゅう●1950年生まれ。大阪外国語大学外国語学部(現大阪大学外国語学部)卒業。出版社勤務を経て79年に学校法人呉学園に入職。全国のグループ校勤務、学校法人名古屋呉学園事務局長、同理事を経て、2011年より現職。

【学校プロフィール】1967年、日本デザイナー学院・日本写真専門学校名古屋校として創立。ビジュアルデザイン学科に、グラフィックデザイン、イラストデザイン、デジタルデザイン、キャラクターデザイン、子どもデザイン、雑誌デザイン、写真映像の7つの専攻を用意。